



フェイスブックで
浜益ファンを獲得!

浜益ふるさと朝市が始まります!

漁協青年部主催の朝市が今年も行われます! 初日は浜益豊漁太鼓の力強いパフォーマンスで、皆さんをお迎えします。

ホタテやとれたての活魚をはじめ、ゆでダコ、干魚、珍味などの加工品も勢ぞろい!

地域おこし協力隊・柿岡さん作成の「浜益Tシャツ」もお披露目します!

とき 4月21日~5月26日までの毎週日曜日
朝7時から昼12時頃まで
ところ 浜益漁港荷捌き所

連休特別子ども企画

自分のまちを探検しよう

(浜益地区編)



私たちが暮らしている浜益区。子どもたちはひとつひとつの集落を、じっくりと探検してみたことがあるでしょうか。小さな抜け道がどこにつながっているかや、変わった作りの建物が昔何屋さんだったのかなど、気になるもの・コトを近所の人に聞きながら探検してみませんか? 浜益のことを、もっと好きになるかもしれません。

第1回目は浜益地区を探検します。

予定している探検ポイント
・神社・お寺・岡島洞窟・浜益漁港など

5月の連休中に実施予定です。詳細は後日、配布します。



昨年の春、浜益観光まちづくり推進協議会のホームページ開設に先駆けて作ったフェイスブックページ。



浜益の一大イベントをはじめ、何気ない日常の一コマまで、とにかく発信を止めることなく続けてきました。今では一つの記事を、およそ100人の人が見えています。記事を見た人は、これをさらに自分の友人にも拡散することとができ、拡散された過去の記事は実に500人以上の人に知られていました。「少しづつ」でも「確実に」浜益が気になるファンを増やしています。今年も変わらぬコツコツと、情報発信に努めていきます。

浜益の魅力を世に伝えたい 若き樹木医さんと学ぶ

最年少の樹木医として活動している、札幌在住の崎川さん。前回のいま・はまでも話題に上がった人物です。

黄金山のイチイの木に魅了された彼は「浜益の魅力伝えるために、もっとスキルを磨きたい」と、まだ雪の残る3月19日、講師同行のもと自然に興味のある学生を連れて浜益にやってきました。

彼らの講師は三木昇さんと言い「風景を読み自然景観を紐解く名人」と呼ばれているとか。その講習会に同行させてもらいました。

講師の三木さんはとにかく知識が豊富。木々や動植物はもちろん、アイヌ文化や幕末・戦時中の情勢、地域の特徴まで、独特の世界観で話が広がります。

「くるみの殻がぼつんと落ちている。なぜか?」「動物が餌として運んだから?その動物とは?」といった質問が続きます。

「冬に虫はいない。そう思うけれどよく見てごらん、いるじゃないか」

「これは春を告げる虫、セツケイカワゲラと言うんだよ」

一同「へえ!」「感銘したら、ほお!と言ってみよう」

一同「ほお!」「はい、皆さんの後ろの木がホオの木だ」

・・・とてもユーモラスな講師でした。



日高で街中ガイドの視察をしてきました



3月18日、本協議会は日高町の街中ガイド視察研修に行ってきました。まずは昼食と日高の歴史について学びます。この日訪れたのは千栄(ちさか)地区です。

街中ガイドを行うのは、普段仕事をしている住民の皆さん。約10年前に日高地域活性化協議会を設立し、日高の宝「ひだから」である歴史の詰まった街中を歩くエコウォークツアーを作りました。

このツアーコースとガイド台本を作るため、当時は会員が夜な夜なコースを歩いていたとか。皆さん忙しく、夜しか時間が無かったそうですが、そこまで頑張れたのは情熱があったからでしょうね。

現存しない地勢や建物を、当時の写真やイラストで説明し、ガイドが歴史の人に扮装するという工夫も面白かったです。

これは、門構えしかない荘内藩陣屋でもマネできそう!と感じました。

編集後記

冬に黄金山のイチイの木に訪れるなんて、地元の私たちでは想像もつかない。

浜益の魅力を知った、よそ者の興味や発想の実現をサポートするため、今年に入ってから4回ほどイチイの木まで行った。

その際に駐車場やトイレ、暖を取るための待機場所を確保したくて近くの方に協力していただいた。突然のお願いに、もちろん戸惑いもあったと思う。しかし、そこには何気ないおもてなしの心があり、それに感動したよそ者が、また浜益を訪れる。

少しずつだが、新しい変化が起こりそうな予感がする。(K)

関係団体の紹介



「社会を揺り動かす」という理念のもと「RISING SUN ROCK FESTIVALにおける環境対策活動」をはじめ子どもの自然体験プログラム開発など、青年層のネットワーク拡大とともに、北海道の地域課題に対して、若者のアイディアやパワーを届ける事業を展開。

活動を通して若者が自らの人生と社会を切り開いていく機会を作り出しています。

昨年、浜益で福島の子どものツアーを受け入れたことをきっかけに、浜益の可能性の掘り起こしや都市部の学生との交流機会を作ってもらっています。